

Department of Pediatrics, Tsukiyama Hospital

月山病院小児科

住所 〒640-8269 和歌山市小松原通り1-3 電話 073-423-2300 FAX 073-423-4000
 E-mail tsuki423@oregano.ocn.ne.jp
 ホームページ http://www4.ocn.ne.jp/~tsuki-hp/ (~はキ-ホ-ド'の@の上の^をshiftで変換)

あけましておめでとうございます
 本年もよろしく願いいたします

今月の小児科診察予定

- 1月29日(水)は私用のため時間外対応できません
- 1月13日(成人の日)は9-12時において診察をおこないます
- 1月7日(火)、21日(火)は午後から大学診察のため時間外対応できません
- 1月17日(金)13時から16時まで保健所勤務のため休診です



今月の顔
 寛道君はやんちゃざかり

インフルエンザの流行状況(1月上旬)

1月1日現在、和歌山市ではインフルエンザ感染症が認めはじまりました、強い流行ではありませんが十分注意が必要です、流行時期としては例年に比べ若干早いようです
 最新の流行状況等は当科のホームページやインフルエンザ情報サービス (<http://influenza.elan.ne.jp>) などで御確認下さい

バックナンバー

特集	感染症豆知識	赤ちゃんの処置
第1号 インフルエンザ予防接種		
第2号 発熱時処置		
第3号 熱性痙攣		
第4号 吐き下し		
第5号 インフルエンザ		
第6号 喘鳴		
第7号 喘息の予防		
第8号 タバコを食べた		鼻づまり
第9号 頭をうった	麻疹	便秘
第10号 小児の皮膚疾患	水痘	赤ちゃんの発熱
第11号 夏のスキンケア	手足口病	湿疹
第12号 アトピー性皮膚炎(前編)	溶連菌感染症	夜泣き
第13号 アトピー性皮膚炎(後編)	おたふくかぜ	吐く
第14号 おっぱい	百日咳	かんしゃくもち
第15号 熱の頻度と対策	突発性発疹症	あおむけ寝とうつぶせ寝
第16号 インフルエンザの診断と薬	ロタウイルス腸炎	赤ちゃんの予防接種
第17号 インフルエンザの合併症	風疹	室温と体温
第18号 花粉対策	リンゴ病	でべそ
第19号 おしっこ異常	アデノウイルス感染症	おちんちん
第20号 おしっこ異常	反復性耳下腺炎	便の色
第21号 扁桃腺炎とアデノイド	単純ヘルペス感染症	母斑(あざ)
第22号 夏かぜ	クループ症候群	離乳食とフォローアップミルク
第23号 虫さされと蕁麻疹	水いボ	おむつかぶれ

インフルエンザの最近の話題と治療方針

近年インフルエンザに対する報道が多くなってきました、関心が高いことはいいことなのですが、情報が多すぎて迷われる方も多いかと思えます、最近の新聞報道などについてお話し、近年の治療方針についてお話しします

新型のインフルエンザウイルス? (十一月二十八日 朝日新聞)

たしかにインフルエンザの新種はみつかっていますが、従来のものより強いものではなく、流行しているわけでもありません、1月現在流行がみられるのは従来どりのもので、一部でB型が見つかっているが、大半はA香港型で厚生労働省結核感染症課は、「予防接種の効果は期待できる」と話している (十二月二十一日 日本経済新聞)とのこと

インフルエンザ大流行? (十一月二十七日 読売新聞)

「東京都健康局は26日、今冬は都内でインフルエンザが大流行する恐れがあると予測を発表した」とのこと、過去のデータを参考にしているのですが、ここ2、3年に過去のデータにはないインフルエンザのお薬が発売されたり予防接種を始めとする国民のインフルエンザ予防への関心の高きからすると大流行にいたるのかがどうかはわかりません、現時点では大流行してはいるわけではないので全国の最新情報をインターネットなどで頻りにチェックしてみたいかがでしょう

インフルエンザ用の子供の薬? (十一月二十一日 読売新聞)

「今年から医師の処方ではなくなった子ども向けの薬は、気道内などでウイルスの増殖を抑える抗インフルエンザウイルス薬のドライシロップ。粉末で水に溶かして飲む。A型、B型のインフルエンザに使用、昨年、成人用の内服薬として健康保険の適用になった」 たしかに処方できるようになったのですが、全国的に使用されるため生産がおいついておらず処方できない場合もあります

治療方針は?

まず早期にインフルエンザかどうか診断をつけることが大切です、インフルエンザであれば早期に抗ウイルス薬を内服するのがいいのですが、インフルエンザの薬をインフルエンザ以外に使用しても効かないばかりでなく、治療の妨げになる場合もあるからです、現在では診断は簡単な検査で十五分程度で可能です、(発症初期ではわからないこともあるので症状が続く場合は時間をあけて再度おこなうこともある)インフルエンザと診断されればインフルエンザの薬を飲んでいただくのですが、現在右のような理由で子供用の甘いお薬が入手困難であり、苦いお薬になってしまふこともありますが、御理解の程よろしくお願いたします、経過としてはインフルエンザのお薬を飲んだとしても数日間熱が続く場合や一旦熱が下がっても再び発熱することもあり処方どおりに飲んでいただくようお願いいたします

肥満

身長に比べて体重が極端に重いことを肥満といいますが、一歳未満の赤ちゃんの肥満は心配ありませんが、3歳頃からは注意が必要で、子供の肥満ではダイエットは必要なく身長が伸びる速度より体重の伸びる速度を低く抑えればバランスのとれた体形になるため身長が伸びる小学校低学年頃までには改善することがよいとされています、肥満を改善するには食事が重要ですが、バランスのよい食事であれば3度の食事については制限する必要はありません、しかし間食やジュース(特に炭酸飲料)は控えるようにして運動をふやしていきましょう、小学校高学年頃までにはある程度の食生活が決まってしまうので周りがコントロールすることも困難になってきます、食生活を家族全員で早期から改善していきましょう

連載: 今月はこんな月 1月はこんな月

1月初旬は学校や幼稚園、保育所がお休みのため年末に流行した感染症(かぜ)は一旦少なくなります、しかし学校がはじまり一週間が経過する中旬頃からは感染症が一気に流行しはじめます、インフルエンザの患者さんが増加するのが例年この時期で、感染性胃腸炎も依然として多くみられ、しつこい腸炎として有名なロタウイルスによるものも出現してきます、水ぼうそうも多く、一年で患者数が最も多い時期になります、感染症においては予防が大切ですが、いや手洗いをしっかりおこなうようにしましょう

月山病院小児科では子供供達に有益な情報をお知らせするために月一回院内報を発行しております